

(使用状態の図)

このたびは **HMS-10Q** をお選びくださいまして、ありがとうございます。

HMS-10Q は、上部のU字型パイプ部分にサドルを掛けるだけの簡単な操作で、自転車の主要部分を床より高く持ち上げた作業しやすい姿勢にするためのスタンド「HMS-10」に、収納に便利なクイックリリースを追加したモデルです。

整備スタンドとしては一般的な、フレームをクランプするタイプのものと比べて、自転車の付け外しが非常に簡単に素早く行なえます。

サドル受け部の高さはクイックリリースによる可変式で、床面から 720 ~ 1,150mm の範囲で自由に調節できますので、ほとんどのサイズの自転車に対応できます。

脚もクイックリリースにより工具なしで簡単に折りたたみますので、使わないときにはコンパクトに畳んで収納しておくことができます。

前輪は床面に着けます

本商品の品質保証期間は、ご購入後 **1年間**です。ただし消耗品や誤った使い方による破損やトラブルなどに関しては保証いたしません。詳しくは商品に添付の「製品保証規定」カードまたはメーカーウェブサイトをご参照ください。



注意していただきたいこと

- 一般的なスポーツ自転車用です。全長が極端に長かったり短かったり、前後で重量バランスが大きく異なるもの、極端に重い自転車では安全に使用できない恐れがあります。
- サドルおよびシートポストからはあらかじめバッグやテールライトなどを取り外してからお使いください。エアロ形状のシートポストでは、薄い緑の部分が圧迫されて破損しないように、緩衝材などを適宜挟んで使用することをお勧めします。
- サドル受けU字パイプの取り付けナットは完全固定させず、じわっと動く程度にとどめておきます。自転車は宙に浮かせるわけではなく、前輪は床面に着いたままになります。前輪を取り外した状態での使用は自転車が不安定になるため行なわないでください。
- 三角形の脚形状となりますので、斜め後方へ押す力を加えると転倒する恐れがあります。注意してください。
- ボトムブラケットを締め付けるなど大きな荷重を与える作業をする場合は、必ず自転車をスタンドから下ろし、床の上で行なってください。スタンド上で行なえるのはそれほど力の入らない軽度な作業のみです。
- 使用前には必ず脚が正規の位置にしっかりと差し込まれ固定されているかどうかを確認してから、自転車を搭載するようにしてください。不適切なままだと使用中に外れて自転車ごと手前に倒れてくる恐れがあります。
- 目的用途外の使用および正しく使用されていない状態における事故や破損によるトラブルに関しては、弊社はその責を負いません。

問い合わせ先

もし何かわからないことがあった場合は、まずお買い求めになった**販売店**にお問い合わせください。もしそこで十分な情報やサービスを受けられない場合に限り、下記までお問い合わせください。

MINOURN

株式会社 箕浦

〒 503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1

Phone (0584) 27-3131 Fax (0584) 27-7505

Email minoura@minoura.jp (営業部)

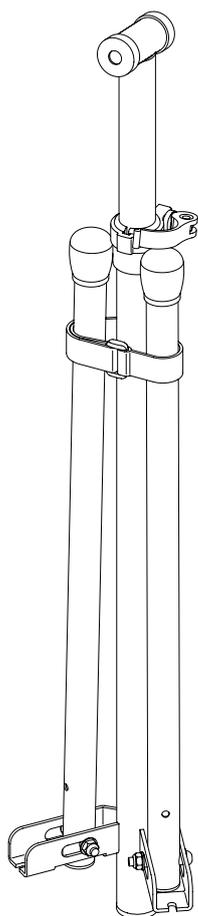
infodesk@minoura.jp (カスタマーサービス)

Web www.minoura.jp

日本製

組み立て方

必要な工具： 17mm スパナ



脚と支柱とをまとめているベルクロテープを外し、左右の脚をそれぞれ開きます。(図1、2)

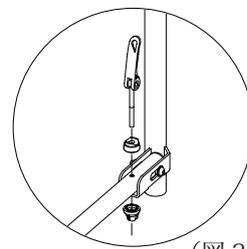
脚は手前に引いた状態(長孔の中のボルトが手前側に来ている状態)でいっぱい開きます。(図2、4)

脚にあいている孔に付属のクイックリリースを取り付けます。ナットはいっぱいには締めず、緩めたままにしておきます。(図3)

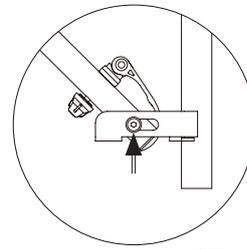
脚の上にあるクイックリリースのレバーを起し下側のナットと脚との間に隙間を作ってから、長孔の中のボルトが奥にいっぱいに着くまで、脚を金具の中に押し込みます。(図5)

その位置でレバーを倒してクイックを締め込み脚を固定します。(図6)

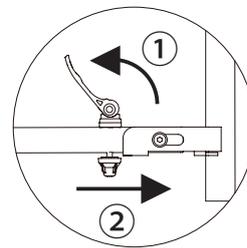
クイックの締め付けが緩い場合は、いったんレバーを起してから下側のナットを少し締め込み、もう一度レバーを倒して締めてください。レバーを半分倒したときに抵抗を感じ始めるのが適切です。



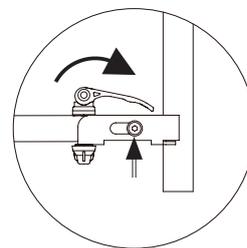
(図3)



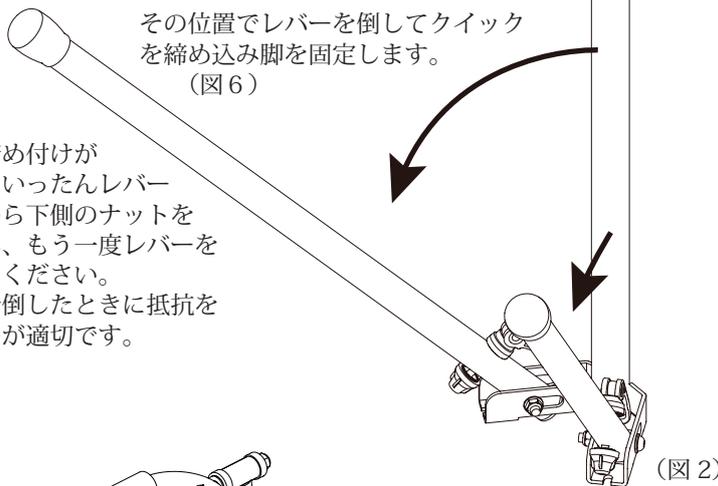
(図4)



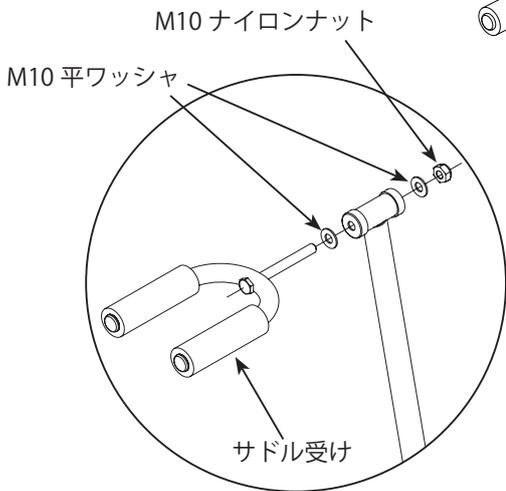
(図5)



(図6)



(図2)



M10 ナイロンナット

M10 平ワッシャ

サドル受け

U字型パイプのサドル受けを本体上部のパイプ部に取り付けます。図のように部品を組み付け、背面のナットを17mmスパナで締めます。(図7)

サドル受けは、自転車を掛けた重みでじわっと回る程度にしておきます。完全固定はしません。逆に軽くクルクルと回ってしまうようだと、自転車が安定して保持されなくなる恐れがあり良くありません。

自転車は自重で前下りになり、前輪が床に着いた状態で安定します。これが作業姿勢になります。床からサドル受けまでの高さは720～1,150mmの高さで無段階に調節できます。

サドル受けの緩衝材(スポンジ)は消耗品です。傷んできたら適宜交換してください。破れたまま使用すると、サドルレールやシートポストを傷付けてしまいます。



サドル受けを完全に固定して自転車を宙に浮かせたスタイルで使用することは、スタンドの左右の重量バランスを大きく崩す原因となり転倒しやすくなるため、お薦めしません。

(図7)